

1. 略歴

- 1982年3月 東京大学文学部国文学専修課程卒業
- 1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程修了
- 1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程中退
- 1987年4月 東京大学文学部助手
- 1990年4月 上智大学文学部専任講師
- 1995年4月 上智大学文学部助教授
- 1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 2007年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
- 2010年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代文学

b 研究課題

太宰治の文学の自意識過剰の饒舌体と呼ばれる文体に注目するところから出発、そのような文体が育まれてゆく必然性を近代文学史の展開に即して考察して行く中で、書き手の表現意識が「私小説」というわが国独自の表現形式を生み出してゆく機構にあらためて着目するに至った。いわゆる作家論の一環として太宰治の文学の特質を解明して行く方向と、日本近代文学における「自己」表現の歴史的変容を解明して行く方向とを、同時並行的におしすすめて行くことを現在の研究課題としている。

c 概要と自己評価

「表現機構」という観点から、小説が小説として認知される暗黙の要件を分析し、近代日本における変遷の様相を、『近代小説の表現機構』（岩波書店、2012年）にまとめ、それをさらに一般書の形で『日本近代小説史』（中公選書、2015年）と『私』をつくる 近代小説の試み』（岩波新書、2015年）にまとめた。これら近代小説研究に関する成果を踏まえ、蓄積してきた太宰治研究を再検討し、集成することが現在の課題になっている。

d 主要業績

(1) 単行本

- 『日本近代小説史』（2015年1月、中公選書、229頁）
- 『私』をつくる 近代小説の試み』（2015年11月、岩波新書、204頁）

(2) 論文

「近代日本文学」という制度の成立『人文知3 境界と交流』（熊野純彦、佐藤健二編、東京大学出版会、2014年3月、149-65頁）

(3) 小論・解説

- 「資料解題」、オンライン版日本近代文学館所蔵『太宰治 自筆原稿集』全三巻、2014年4月
- 「太宰治直筆資料公開の現状と課題」、『日本近代文学会東北支部会報』49、2014年11月、1-3頁
- 『生誕105年 太宰治展一語りかける言葉』の意義『神奈川近代文学館年報 2014年（平成26年）度』2015年7月
- 「解説」、「新装版 三好行雄『日本文学の近代と反近代』」（東京大学出版会、2015年10月、269-287頁）4

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

放送大学

(2) 学会

日本近代文学館理事、日本近代文学会理事、昭和文学会幹事

(3) その他

筑摩書房教科書編集委員、読売新聞読書委員